

外国人生徒の漢字を読むストラテジー能力の向上を目指した授業実践研究  
—英語の「問題指示文」を理解するための漢字学習の試みを通して—

群馬大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻 授業実践開発コース

有富 はじめ

## 1. 課題研究の目的及び背景

### (1) 研究テーマに関わる社会的動向

文部科学省(2014)は、「日本語指導が必要な児童生徒」を「日本語で日常会話が十分にできない児童生徒」及び「日常会話ができても、学年相当の学習言語能力が不足し、学習活動への取組に支障が生じている児童生徒」と定義している。外国人生徒には「日本語話者との接触が限られ、日本語の力を鍛える場が家庭や近隣の生活にない場合には、学習に耐えうる日本語の力が培われていない」(文部科学省 2019)という背景がある。従って、学校教育における日本語指導については、日本語初期指導だけではなく、教科学習のための日本語指導をあわせて考えていかなければならない。

### (2) 漢字学習ストラテジーについて

日本語指導における文字の学習はひらがな、カタカナの学習から始まり、その後基礎的な漢字の学習を行う。日本語母語話者が漢字を覚えるために行う工夫や行動は、須田(1988)によると、書写、書き順、点画、部首、六書、辞書の使用、類似系の比較、文脈中での音、意義の理解、音読、漢字カード、作文などがあるとしている。また、日本人の漢字学習ストラテジー研究としては、『中学生の漢字習得に関する研究』(国立国語研究所 2017)がある。この研究では、中学生が用いる漢字学習ストラテジーは以下の順で使用頻度(意識)が高いと報告されている。

「へん・つくり」>「字形字体」>「意味から覚える」>「何回も書いて覚える」>「熟語にして覚える」>「漢字を分解して覚える」

>「辞典を使う」>「読みから覚える(音・訓)」>「国語辞典や漢和辞典を使用する」>「本・新聞・週刊誌・テレビ等から覚える」>「教科書の新出漢字を覚える」

外国人生徒も日本人生徒が使用しているとす  
る多様な漢字学習ストラテジーを意識させる学  
習機会が重要であると考えられる。

### (3) テストリテラシーについて

外国人生徒にとって、試験の問題指示文を理解することは難しいのではないだろうか。テストリテラシーについて、大野(1994)は「学校社会で対処していくための最低限のテストに関わる知識、テスト利用能力、テスト作成能力などを意味する」(p.167)としている。試験の問題指示文には普段のコミュニケーションで使用する語彙や表現とは異なるものが使われていることが多い。よって、外国人生徒が問題指示文の日本語を理解できるように、授業の中で補充する必要がある。

### (4) 実習校の状況と教育実践上の課題

実習校において、本研究の対象とする生徒は4名(日本語学習期間が長い【8~10か月】のAさんとBさん、日本語学習期間の短い【1ヶ月】のCさんとDさん)である。巡回型日本語指導員への聞き取り及び対象生徒へのアンケートの結果から以下の4点の実態が確認できた。

①生活言語としての日本語の獲得をまず目標に設定し、話したり、読んだり、書いたりする学習活動を中心的に行っている。今後語彙や表現を増やし、日本語を使って自分の思いや考えを教員や友人に伝えること

ができるようになることが必要である。

②教科の学習の補充はほとんど取り組んでおらず、学習言語についてはほとんど理解できていない。

③Aさん、Bさん、Dさんは高校受検を控えているため、受験に必要な語彙や、試験問題で使われる漢字を学習し読むことができるようになっておく必要がある。

④「音読みと訓読みの両方を覚える」、「漢字の読み方に気をつける」といった漢字を読むストラテジーの使用意識が乏しい。

以上の実態から、入試試験の問題指示文に使用される漢字や語彙を読むことができるように、漢字の読みのストラテジー能力向上を目指した授業実践研究が必要であると考えた。

## (5) 研究の目的

そこで本研究では、漢字学習ストラテジーの活用を意識化させることに着目した学習活動及びテストリテラシーを身に付けるための学習活動を取り入れることで、生徒の漢字を読むストラテジー能力の向上を目指す。

## 2. 課題研究の方法と内容

### (1) 研究の方法

教職大学院指導教員と共に3か月間のアクション・リサーチ（実践期間：2023年9月4日～11月27日）を行った。実践の分析においては、以下の4点を中心に行った。

- ①生徒の授業の様子から見られる変容
- ②振り返りシートの記述
- ③漢字テストの結果
- ④実践前と実践後に行ったフォローアップインタビュー及びアンケートの結果

### (2) 本研究で扱う単元について

本単元では、漢字の学習ストラテジーを学ぶ学習と、公立高校入試試験の問題指示文で使われている漢字の学習を行った。

1、2、3時間目では主に漢字学習ストラテジー全般についての学習を行った。1時間目では、漢字の音読みと訓読みの両方を覚えるために、生

徒が習得している漢字（例として、「海」や「体」）を例に挙げ、漢字には音読みと訓読みがあることを意識させた。また、漢字に使われる部首を意識させるために、音・訓読みの学習で例に挙げた漢字（「海」、「体」）の部首である「さんずい」や「にんべん」などを学習した。2時間目では、初めて学習する漢字を覚えるために、実践者がどのように漢字を覚えたかという例を提示した。そして生徒自身の漢字学習の方法を共有した。3時間目では、学校内の掲示等に使われている漢字の読み方や意味を推測する活動を行った。生徒は校内にある自分が知りたい漢字をタブレットで撮影し、これまでに学習したことを手立てに、それらの漢字の読み方や意味を学んだ。

4～7時間目では、英語の試験の問題指示文に使われる漢字の学習を行った。4時間目では、英語のワークシートを手立てに問題指示文に使用されている漢字の読み方、意味を確認し、英語の問題指示文に使用されている漢字の学習の必要性を認識させた。5時間目では、教科書の指示文を一つ取り上げ、その文を読むことができるように、文に使われる漢字の読み方を学習した。6時間目では、令和5年度の入試試験の問題指示文（英語）を取り上げて、その指示文に使われる漢字の学習を行った。

そして、7時間目では、6時間目で取り上げた問題指示文とは別の指示文を扱い、その文に書かれている漢字の学習を行った。この内容を扱う前（授業実践の6時間目の前）に対象生徒に試験問題文を見せ、読むことができる漢字及び読めない漢字を確認した。それを踏まえ授業では、読むことができなかった漢字及び英語の問題指示文に高頻度で出る漢字を取り上げて学習を進めた。

### (3) 授業実践方法

以下、本実践における授業実践方法を2つ示す。

1つ目は母語訳ワークシートの併用である。

本授業で使用するワークシート2枚の内1枚は、生徒がこの授業で学習する漢字、その漢字の

読み方(ふりがなつき)、漢字の意味の母語訳を調べて書く欄を設けた語彙リストをつけた。もう1枚のワークシートは漢字の読み方を空欄にし、漢字の読み方を書いて確認するものとして準備をした。また、授業では、生徒が使用する語彙リストのシートと同じになるように作成した模造紙を提示し、漢字の学習に取り組みやすくした。

2つ目は、協働学習である。日本語指導は生徒の日本語能力に合わせた個別指導を行うことが一般的である。しかし、本実践では日本語のレベルに関わらず、生徒が協力しながら漢字の学習活動に参加できるように、そして多様な漢字学習ストラテジーの使用が認識できるように協働学習を試みた。例えば、ペアワークを通して、問題指示文の文章に使われる漢字の読み方や意味を協力して確認した。

### 3. 実践結果と考察

#### (1) 授業中の変容について

ワークシートや模造紙を活用して、漢字の読み方を繰り返し練習する活動では、ある程度日本語能力が高いAさんやBさんは2回、3回と繰り返し読むことで、漢字の読み方が定着していた。また、日本語能力が低いCさんやDさんは、漢字が読めない場面も見受けられたが、おおよそ4割程度の漢字の読み方が定着していた。

#### (2) 振り返りシートの記述

振り返りシートを使用して、授業の振り返りを行った。振り返りの記述では、AさんやBさんには授業に対する肯定的な意見が見られた。CさんやDさんは、ベトナム語の通訳が可能な日本語指導助手を通して、本授業の振り返りを聞いた。その振り返りでは、Cさん、Dさんともに「難しい漢字が多く、覚えることが大変である」とのことであった。

#### (3) 漢字テストの結果

本実践後、7時間目で学習した漢字の読み方の定着度を確認するために、12月4日に1回目、12月11日に2回目のテストを行った(図1参照)。

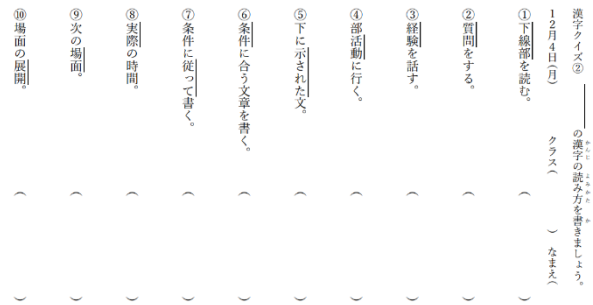


図1 生徒に行った漢字テスト

また、生徒のテストの結果を以下の表1に示す。

表1 対象生徒の漢字テストの結果

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん
1回目	100	60	20	50
2回目	100	60	40	40

Aさんは実践前の聞き取りの際、授業で扱う漢字については7割程度読むことができていた。実践後は授業で扱った全ての漢字に正しい読み仮名を振ることができた。Bさんは実践前の聞き取りの際、授業で扱う漢字については3割程度読むことができていた。実践後は授業で扱った漢字の内、6割程度正しい読み仮名を振ることができた。Cさん、Dさんは実践前の聞き取りの際、授業で扱う漢字についてはほとんど読むことができなかった。実践後は授業で扱った漢字の内、4割程度正しい読み仮名を振ることができた。

#### (4) 実践における課題について

本実践を通していくつかの課題が明らかになった。その中から7時間目に浮き彫りになった2つの課題を以下に挙げる。

1つ目は、ペア活動の指示の仕方が適切でなかったことである。生徒にペアで活動を行うという指示を十分に伝えていなかったため、ペアで活動をするところを個人で活動していた。指示をしっかりと伝えるためには十分に時間を取って説明し、生徒一人一人に指示が理解できたかを確認する必要があった。

2つ目は、生徒の日本語レベルに合わせた教材

が提供できていなかったことである。生徒の日本語のレベルに関わらず、活動に取り組みやすいように母語訳付きのワークシートを活用したが、日本語能力が高い生徒にはやさしすぎたため、時間を持て余してしまった。彼らにはルビだけが振られたワークシートを使用して、母語訳がなくても活動に取り組めるようにすべきであった。また、日本語能力が高い生徒には、学習する漢字を増やす、別の課題を与えるなど、付加的な学習活動を提供すべきであった。

#### (5) 漢字学習ストラテジーの使用意識の変容

実践後に実践前に行ったアンケートと同じ質問を対象生徒に問うた(表2参照)。そして、このアンケートで得られた結果を授業実践前の結果と比較し、生徒一人一人の漢字学習ストラテジーの使用意識の変容をまとめた。

表2 対象生徒に行ったアンケート

質問項目	いつも そうする	そうする	あまり そうしない	そうしない
1. 漢字を使って文章を作る。				
2. 漢字の形に気をつける。				
3. 漢字の意味を覚える。				
4. 漢字の読み方に気をつける。				
5. 日常生活で使おうとする。				
6. 辞典で調べる				
7. 翻訳機(翻訳アプリ)を使う。				
8. 先生や友達に聞く。				
9. 書き順に気をつける				
10. 部首に注意する。				
11. 音読みと訓読みの両方を覚える。				
12. 熟語を覚える。				
13. ノートに何回も書く。				
14. 文章や会話文を何度も読む。				
15. 看板などの漢字を読む。				
16. ふりがなをつける				
17. 漢字を分けて(例:男なら田と力)覚える。				
18. 自分でテストをして定着を確認する。				
19. ノートを作り自分で勉強する。				

実践の結果、日本語の学習歴にかかわらず、生徒の漢字学習ストラテジーの使用意識は全体的に高まっていることが分かった。

また、本研究に関わる漢字を読むストラテジーの使用意識について、項目4「漢字の読み方に気をつける」のストラテジーの使用意識はAさん、Bさん、Dさんには変容が見られたが、Cさんには見られなかった。項目14「文章や会話文を何度も読む」、項目15「看板などの漢字を読む」については、AさんやDさんには変容が見られたが、BさんとCさんには変容が見られなかつ

た。そして、項目11「音読みと訓読みの両方を覚える」のストラテジーの使用意識はどの生徒にも変容が見られなかった。よって、今回の実践指導だけでは漢字を読むストラテジーの使用意識を高めるのに不十分であったことが明らかとなった。

#### 4. まとめと今後の課題

外国人生徒は日本語能力、母語、母国での学習経験、家庭での学習環境など、様々な背景を持っている。中学校で彼らに日本語指導を行うためには、生徒一人一人に長期的な目標を立てて、いつまでにどのような日本語能力を身に付けておくべきかを十分に検討する必要がある。日本語指導には学習指導要領がない。生徒の個別の能力に合わせた指導を行うためには、まず日本語学習のレディネスやニーズを教員が把握して指導計画を立てなければならない。

日本語指導は一般的に個別指導が中心であるが、インクルーシブ教育の観点から、様々なレベルや背景を持つ生徒が共に学び合うことができるような授業を今後検討していきたい。

#### 引用・参考文献

- ・大野木裕明(1994)『テストの心理学』、ナカニシヤ出版。
- ・国立国語研究所(2017)『中学生の漢字習得に関する研究』、秀英出版。
- ・須田実(1988)『日本語教育における漢字』佐藤喜代治編『講座漢字12 漢字教育』65-85、明治書院。
- ・文部科学省(2014)「日本語指導の対象となる児童生徒」  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/003/1341927.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1341927.htm)
- ・文部科学省(2019)「第1章 外国人児童生徒等の多様性への対応」『外国人児童生徒受け入れの手引き 改訂版』  
[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2019/04/22/1304738\\_003.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/04/22/1304738_003.pdf)